



昨年9月に東京駅 KITTE で開催された医師向けセミナー。セミナー会場は満室で立ち見希望が出る程の盛況だったそう。

「人類は老化という病を克服する」

医療法人社団創雅会理事長 乾 雅人
銀座アイグラッドクリニック院長

人類の永遠の願いである不老長寿。平均寿命が伸び、医療技術が飛躍的に進んだ現代においてもそれは遠い夢であると思われてきた。そんな中、日本のアンチエイジング医療のトップランナーである銀座アイグラッドクリニック院長の乾雅人医師は「老化は治療が可能な疾患である」という。数多くの医師向けのセミナーなどで講演を重ねる乾医師が語る「今が医療の一大転換期」とはどういうことなのだろうか。

Profile

乾 雅人 いぬい まさと

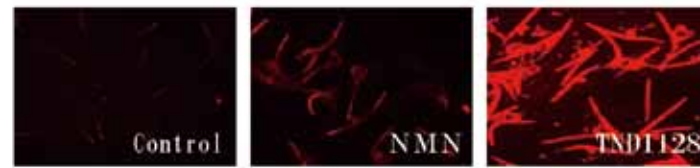
東京大学医学部卒。同大学医学部附属病院で初期臨床研修、外科専門研修を修了。同大学医学系大学院では肺移植領域の研究に従事する傍ら、医療業界のプロ経営者となるべく大学病院や生命保険会社、製薬会社などを対象にする医療コンサルティング会社を設立。2020 年には「自然美の追求」に特化した美容皮膚科、銀座アイグラッドクリニックを開業。「細胞の活性化」を切り口に世界中の薬液を探し求め、幹細胞治療や老化治療薬を検証している。薬液の伝達手段にもこだわり、メソガン（U225）は Needle Concept 社公認の認定指導医を日本人で初めて取得。

Information

銀座アイグラッドクリニック

東京都中央区銀座3丁目11-16
VORT 銀座イースト3階
TEL 03-6264-7550
email info@ginza-iglad.com
https://ginza-iglad.com/

ミトコンドリア活性の比較図



エネルギー（専門用語では ATP）を生成した分だけ、赤色発光する Mito Tracker Red 染色法。通常状態のミトコンドリアを観察したものが control と呼ばれる基準データです。NMN の投与で赤色発光、即ちエネルギー（ATP）生成が確認出来ましたが、TDN128 によるそれは、NMN の数十倍強力であることが一目瞭然です。

「世界最強のミトコンドリア／サーチュイン遺伝子（長寿遺伝子）活性化物質」の実際効果

実際に5デアザフラビン（TDN128）（100mg）ICIXを処方した事例を紹介します。

例1 69歳・男性I型糖尿病高血圧 脂質異常

↓投与後1週間程度で、収縮期血圧が140mmHgから110mmHgまで改善、内服していた降圧剤を中止。

空腹時血糖が170mg/dl前後から130mg/dl前後まで改善。1ヶ月後の採血データではHbA1cが8.1%

↓7.5%に減少、脂質異常症も改善。5デアザフラビンの内服を中断

した後、糖尿病は軽度の悪化を認めたが、高血圧や脂質異常は改善したままだった。一部の薬剤の断薬に成功し、正に、老化を治療した結果、高血圧や糖尿病、脂質異常などの生活習慣病が改善した一例です。

例2 85歳・女性慢性腎不全（透析導入対象）

↓投与後1ヵ月後の採血で、腎機能の改善を認め、透析の導入を回避。特段の副作用なく日常生活を過ごしている。腎細胞のミトコンドリア活性により、慢性腎不全の改善を認め、透析導入というQOLの低下を回避出来た一例です。

例3 49歳・男性脊柱管狭窄症、頸椎症

↓投与後数日で頸部や肩の痛みが軽快。一人ではスーツの着替えやゴルフのスイングも出来なかったが、無理なく出来る様になった。特別に強力なミトコンドリア活性により、NMNでは得られなかった神経保護作用が得られたと考える一例です。

この他にも、NMNにはない臨床効果が得られた症例があり、量質転化が起きている可能性があります。

「5デアザフラビンを処方する外来」臨床現場こそが人類社会の最前線

メンデルの遺伝の法則は、たった

一人の丹念な観察から生まれました。初手として観察研究は有効です。5デアザフラビン（TDN128）

による臨床効果も同様に。同物質で治る老化と、治らない老化とを仕

分ける。そうして初めて、仮説が生まれ、臆気ながら老化の辺縁、輪郭を

掴み、老化の分類表作成に繋がります。過去30年で、がん治療は飛躍的に

進みました。全ては、がん分類が世界統一規格となり、共通認識、共

通言語の下、膨大な数の仮説検証が繰り返されたことに端を発します。

それ故、これからの30年で人類が老化という病を克服する為には、先ず、

老化分類の統一規格を定めることが重要なのです。老化という病の疫

学データベースを構築し、公衆衛生に活かすことが、もうひとつの医師の役割です。銀座アイグラッドクリニックでは、この認識の下、世界最先端のアンチエイジング医療を提供して

います。幹細胞治療による細胞の活性化というプラス効果の促進と、老化治療薬によるマイナス効果の除去と。相乗効果により、未来の医療の基準を作りにいります。臨床現場こそが、人類社会の最前線なのです。



銀座アイグラッドクリニック院長 乾 雅人 セミナーのお知らせ

日本のアンチエイジング医療の最前線を走り続ける銀座アイグラッドクリニック院長、乾雅人は『医療・医学・医者に対する常識、思い込みを揺さぶる』をコンセプトに Youtube でも情報発信をしています。Dr.Inui チャンネルでご検索ください。また、PAVONE 読者の方限定で、招待制セミナーを開催しています。詳しくは、銀座アイグラッドクリニックまでお問い合わせください。

<https://ginza-iglad.com/> Mail:info@ginza-iglad.com

2019年にWHOが公表したICD-11

「老化は病気である」ことを知っていますか？

「老化は治る」という表現を使うと、「胡散臭い」と思う人はとても多いはず。ですが、実は世界最先端の医師や研究者の間では、もはや常識になりつつあります。今から12年前の2010年。世界最古の権威ある学術協会の一つであるロンドン王立協会では「老化は治る」という認識が結論づけられました。

遅れること約10年、2019年にWHO（世界保健機構）がICD-11（国際疾病分類第11版）で「老化は治療対象である」という概念を盛り込みます。約30年毎にICDは改定されますが、過去30年は、人類ががん^①という病を克服する時代でした。それに対し、これからの30年は、人類が「老化」という病を克服する時代になるでしょう。正に、夜明け直前です。

実臨床の現場では、早期老化症という病気が知られています。文字通り、老化が加速して、若くして糖尿病や高血圧、筋力低下、認知症などの老年症候群を発症する病気です。ウェルナー症候群（患者の6割が日本人）にはウェルナー遺伝子が、ダウン症候群（1000人に1人発症）には23番染色体トリソミーが、等

と、早老症には原因となる遺伝子異常が同定されています。では、「原因である遺伝子異常を治療したならば、加速していた老化は人並みの老化速度になるのでは？」という仮説は十分納得がいくものです。老化とは、加速したり減速したり、場合によっては巻き戻る、動的なプロセスなのです。改めて、老化の本質を捉えてみましょう。

まず、「加齢」と「老化」は異なります。加齢に対応する概念は、暦年齢であり、一定の速度で一方向性に行います。一方で老化に対応するそれは、生物学的年齢であり、先述の如く可逆的です。この生物学的年齢を計測する物差しとして、従来は、体組成年齢、血管年齢、肌年齢などが用いられてきましたが、昨今では個体を作る設計図である遺伝子の状態を計測することで、より実態を反映した計測が試みられています。

また、一口に老化と言っても、個体の老化、細胞の老化、遺伝子の老化、は異なります。例えば、がん細胞。細胞としては不老不死ですが、個体にとっては害悪そのものです。老化について議論する時、個体、細胞、遺伝子のどの階層の議論かを混同してはいけません。老化の本質を正しく理解することが、何よりも重要なのです。

老化が克服されることで医療の常識、社会に革命が起きる

日本人の死因の第一位は「がん」ですが、タバコによる肺がんリスクは男性で4・8倍、女性で3・9倍です。受動喫煙で1・3倍。一方、老化による肺がんリスクは100、1000倍です。如何に、老化というリスクが突出した危険因子かは自明です。加えて、老化とは、老年症候群の原因であり、万病に共通する唯一のリスクでもあります。

いい換えるならば、老化を治療することで、万病のリスクが1／100、1／1000になるのです。分かりやすいイメージとして、生きることが一定の道幅を歩み続ける様なものです。老化により、その道幅が徐々に狭くなると想像して下さい。高血圧や糖尿病、筋力低下など、ひとたび道を踏み外したら、元に戻るのは困難です。従来の医療は、狭くなった道幅の中で微調整をしているに過ぎません。

一方で、老化そのものに対する治療とは、その道幅をもう一度広げることには相当します。老化治療とは、安全域の再確保とも言えます。更に、従来の西洋医療は臓器ごとのトリードオフの関係性にあります。例えば、高血圧治療としての降圧薬。



一部の薬剤は腎臓に負担を掛けたり、脳血流の低下により認知症リスクを上昇させたりすることが懸念されます。一方で、老化そのものの治療は、心臓にも腎臓にも脳にも良い。部分最適ではなく全体最適、対症療法ではなく根本治療なのです。これは何も夢物語ではありません。そう遠くない未来、全社員が60歳以上のベンチャー企業が台頭したり、60歳以上を対象としたレジャー産業が市場として成長してきたりするでしょう。若い方にとってもライフプランの変更が余儀なくされ、健康寿命≒寿命となる未来が見えてきます。

「長寿サプリが変える未来」

細胞レベルで老化を捉えてみます。幹細胞などの特殊な細胞を除き、通常の細胞は分裂回数に限界があります。この限界を迎えた時や、あまりに強いストレス（戦争や震災、抗がん剤投与、放射線被爆、など）に晒された時、細胞はその維持機能を停止して老化細胞となります。本来であれば、がん細胞にならない様に個体を守る仕組みでもあるのですが、体内に残存した老化細胞は周囲に炎症を引き起こし、糖尿病や脂質異常などの生活習慣病に直結します。内臓脂肪が周囲に炎症を起こしメタボリックシンドロームを発症するのと同じです。この為、老化細胞を除去する薬が開発されていますが、本質は抗がん剤であり、医療機関での慎重な検証が必要で

す。遺伝子レベルではどうか。遺伝学の本質は、単純な生物モデルで仮説検証を繰り返すことで、人間の遺伝子に対して絞り込み検索が可能なことです。単細胞生物である酵母では、Sirtuin遺伝子を活性化することで寿命が30、40%延びることが知られています。このSirtuin遺伝子は、人間ではSirtuin遺伝子に相当します。サーチュイン遺伝子（Sirtuin-7）が

長寿遺伝子と呼ばれる所以です。こうして、世界中がサーチュインブースターを探し求め、NMNという長寿サプリが人気を博します。生命活動エネルギーの95%を生成するミトコンドリア活性がもうひとつの主機能として知られ、NMNの注目度は増すばかりです。

ところが、このNMNの上位互換の物質が国内の研究機関に眠っていました。「5デアザフラビン（NDI18）」という知財で、ミトコンドリア活性がNMNの数十倍強力と国際特許承認済みであり、サーチュイン遺伝子活性もその数倍です。フラビンB（ビタミンBの名前の通り、ビタミンB骨格を有するNMNとは別の物質でありながら、生体内の機能はNMNそのものです。

そして、その化学構造から数百種類のカスタマイズが可能であり、その中で最良のものが「NDI18」と名称されました。銀座アイグラッドクリニックでは、倫理審査委員会の承認を得た上で観察研究を行ない、実際に透析導入の回避や、末期がん患者のQOL改善、I型糖尿病や難治性高血圧症の改善、コロナ後遺症の改善、認知症の改善、などの症例を経験しています。いずれも、従来の保険診療では救えなかった事例です。



衆議院第二会館での講演の様子。一般人にも分かりやすく「老化は治る」という世界観を伝えている。

5デアザフラビンが変える未来